



## 第11回子ども・みらい・サポート事業を振り返って

第11回子ども・みらい・サポート事業実行委員会 事務局長

山口県BBS連盟 事務局長 後藤 利幸

平成23年（2011年）7月16日（土）～18日（月・海の日）に山口県宇部市「アクトビレッジおの」で第11回子ども・みらい・サポート事業『大きな発見！小さな発見！～いつもとちがう“くらし”と“なかま”～』を開催しました。

日本BBS連盟から「例年のとおり裏話を書いてほしい」と依頼がありましたので、徒然なるままに書き遺しておこうと思います。

### （山口県に決まるまで）

平成21年（2009年）の中国地方BBS連盟の理事会で、中国地方が引き受けになるということで、開催県をどこにするかという重たい議題が始まりでした。

春の第1回理事会では、前回の開催地であった鳥取県を除いて各県持ち帰りでどんなことができるか、また、したいかを検討してくるということで終わりました。

冬の第2回理事会で山口県は、「非日常的なキャンプをしたい！」という意見を出したわけですが、そのまま開催県となってしまいました。私以外の山口県の理事はやる気満々？でしたが、私は準備が大変ということを知っていましたから、あまり気が進まなかったのですが、更生保護委員会と他の理事に押し切られ？引き受けることになりました。



### （実行委員会のなぐれ）

山口県が引き受けることで決まり、平成22年（2010年）4月17日（土）の山口県の役員会でこの事業を行う報告を役員にしました。

まずは、実行委員会を作ろうということになり、5月10日（月）に中国地方管内に募集をかけ、6月30日（水）までに1次集約を行いました。実行委員は、実行委員会規約

の中で3種類に分けました。1号実行委員は「中国地方BBS連盟の役員」、2号実行委員は「山口県BBS連盟の役員」、3号実行委員は「有志の会員」としました。

3号実行委員（有志の会員）は、広島県と山口県を合わせて16名集まり、1号、2号実行委員を合わせて41名の実行委員でスタートすることになりました。しかし、毎回の実行委員会の参加者は10～15名程度の参加状況となってしまいます。

第1回の実行委員会は、7月10日（土）に開催しました。開催まで1年前です。最初の実行委員会では、役員の決定（実行委員長1名、副実行委員長2名、事務局長1名、事務局次長1名）と実行委員会の運営方法（宿題形式、議事録の作成）、開催日時を平成23年（2011年）7月17日（日）中心日とすることや今後の実行委員会の日程（月1回の開催）について決めました。この実行委員会が、今後1年半、合計22回行うことになる実行委員会の始まりでした。

第2回目実行委員会までに、北海道で7月17日（土）～19日（月・祝）に行われた第10回こども・みらい・サポート事業に2名の学生会員を派遣しました。かなりタイトなスケジュールで参加してもらったのですが、いろいろなものを吸収して帰ってきました。

事業全体の流れ、実行委員の動き方、裏方の仕事などを中心に見てこられ、8月21日（土）に開催した第2回実行委員会で復命をしてもらいました。この復命を参考にいよいよ事業内容について協議が始まりました。

第3回（9月18日（土））、第4回（10月16日（土））で協議し、「①非日常的な遊び」「②何も無いところで思いっきり遊べる遊び」「③楽しい遊び」ということで、水鉄砲を使った遊びを行うことにしました。この水鉄砲が今後いろいろな障害となっていくわけですが…。

そのほかに、実行委員会を「イベント部門」「レクリエーション部門」「総務部門」の3つの班に分け分担して事業を進めることにしました。

「イベント部門」は、この事業のメインとなる行事を担当する。

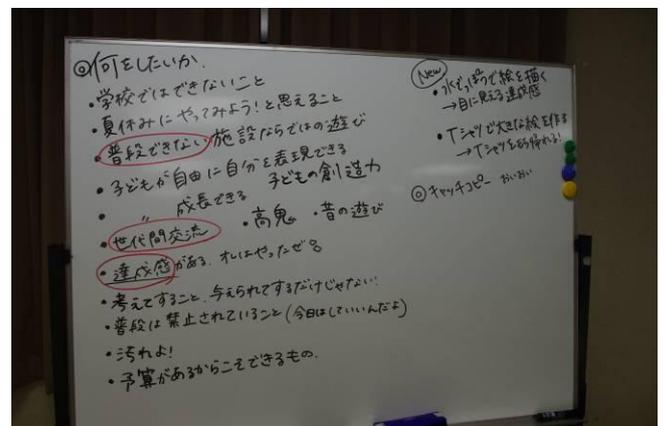
「レクリエーション部門」は、レク活動を担当する。

「総務部門」は、実行委員会の庶務及びその他イベント、レクリエーション部門に属さない行事を担当するといった感じです。

進め方が悪かったせいもあるのかもしれませんが、この担当分けは後に縦割りになってしまい部門間に距離ができていくことになってしまいます。

第5回（11月20日（土））では、事業内容は決まったが開催場所をどこにするかを協議しました。協議の結果4候補地となり後日、副実行委員長が下見に行くことにしました。協議の中で、「何かテーマがないと目標がない。」という意見と「テーマは、事業内容を詰めていったら必然的に出てくるものだ。」という意見が出て、初めてこの実行委員会の中でぶつかり合いがありました。協議の結果、仮テーマを作るためブレインストーミングを行い『非日常の体験！世代間の交流！』と決めました。そのほかに、参加対象を小学校1年生～小学校6年生、日程は1泊2日などを決めました。

第6回（12月26日（土））は、副実行委員長が候補地を見てきた報告の後、開催場



所を2か所までにしぼり、第1候補を宇部市の「アクトビレッジおの」第2候補地を「山口徳地青少年自然の家」としました。候補地に連絡をとった結果、「アクトビレッジおの」に決定しました。

協議の中で、一つの疑問がわいてきました。「水鉄砲をするのはなぜか。」ということです。日頃できないことを思いっきりやろう！っていうことはいいのだが、なぜ中国地方の山口県で『水鉄砲』なのか。もう一度考える必要があるのではないかという提案があり次の実行委員会までに各自で考えてくることとなりました。開催日まであと半年です。

年が明けて第7回（平成23年（2011年）1月15日（土））では、『水鉄砲』から離れて、日本BBS連盟の『「こども・みらい・サポート事業」申し合わせ』の「1 事業の趣旨と期間」に沿った事業内容でもう一度考え直すことにしました。「地域の自治体をはじめとする様々な関係機関・団体との連携とBBS会員のサポート」、「こども達にその地域特有の行事を体験させる」、「親や大人などの異世代とのふれあいの場を設定」、「自分探しに手を差し伸べていく」これらのためにどういった事業内容にするかというものです。『地域特有』とは何かということ考え、「手すき和紙」「水鉄砲」「竹細工」を進めていこうということになりました。

1月からは、実行委員会の話し合いだけでは、間に合わなくなったため実行委員の有志で実行委員会に提出する議題をあらかじめ話し合う運営委員会を開催するようにしました。

第8回（2月20日（日））では、中国地方BBS連盟理事会（2月27日（日））と日本BBS連盟理事会（3月5日（土））が開催されるまでの最後の実行委員会になるため、実施要綱と収支予算を実行委員会で承認しました。ここでやっと「竹細工」と「紙すき」をやることが決まりました。

この実施要綱と収支予算書を無事、中国地方BBS連盟と日本BBS連盟にご承諾いただきました。

この後の第9回（3月6日（日））、第10回（3月20日（日））、第11回（4月10日（日））、第13回（5月21日（土））までは、プレ大会を行うために、事業内容を何度も何度も繰り返し話し合いました。また、同時に参加者の募集について話し合いました。

6月4日（土）～6月5日（日）にかけて実行委員の知り合いのこどもなど15人が参加した全体で50人規模のプレ大会を開催しました。反省点がたくさんありましたが、こども達が大変喜んでいたので印象に残っています。

第14回（6月19日（日））、第15回（7月3日（日））は、プレ大会の反省のもとタイムスケジュールや準備品、人員配置の確認など朝から初めて夜までかけて納得いくまで話し合いました。

第16回（7月10日（日））は、タイムスケジュールや準備品などの最終確認を行い本大会に備えました。

本大会も終わり、第17回（7月23日（土））からは、実施報告書の作成のための実



行委員会となりました。第16回までの殺気立った？話し合いでなく、穏やかな話し合いに変わったのが印象深いです。

第18回（8月27日（土））、第19回（9月24日（土））、第20回（10月29日（土））、第21回（12月3日（土））、第22回（平成24年（2012年）1月21日（土））でアンケートの取りまとめと報告、実施報告書の内容確認、校正をし、長い実行委員会は終わることになりました。

### （保護司さんの協力による参加者募）

今回のサポート事業は、募集人数は45名の予定でしたが、応募者数は318名ありました。本当にすごいことです。この応募者数の裏には、地元保護区の保護司さんの大きな力添えがありました。

募集は当初、地元教育委員会を経由して、回収は料金受取人払郵便で行う予定でした。しかし、この料金受取人払の承認を得るため、郵便局とかなりのやり取りをすることを知らなかったため、2か月以上かけ郵便局に申請をしましたが、時間的に間に合わないののでどうしようと悩んでいました。プレ大会の後の実行委員会で地元の保護司さんと話し合いをした際に保護司さんから募集は保護司のほうでお手伝いします。とおっしゃられ学校担当の担当保護司さんが、それぞれ市内の学校に足を運んでいただき説明をしながら学校へお願いをするということになりました。

すぐさま、印刷会社へ依頼し、募集パンフレットを印刷していただき保護司さんによる募集をかけ始めたのは、本大会まで1か月を切っていました。

この頃の実行委員会では、募集期間も短いことから、参加者が集まらない場合はどうしようかという雰囲気がいっぱいでしたが、応募期限には、募集人数の7倍の応募がありました。これも保護司さんの英断のおかげで本当に感謝しています。

後ほど保護司さんにお聞きしたところ募集期限が過ぎても問い合わせが多くてお断りをしたとのことでした。

次に困ったことは、どうやって参加者を選ぶかということでした。対外的には、厳選な抽選となっていますがある程度抽選までに選考をさせていただきました。

まずは、応募用紙を学年ごとに仕分けをしました。小学1年生から6年生の参加のバランスを保つためです。次に、「一泊二日の風呂無しキャンプ」という過酷な状況などを考慮してアレルギーを持っておられる方は申し訳ないのですがご遠慮させていただきました。



もちろん保険には入りましたが、万が一のことを考えての措置でした。

その後に学年ごとに抽選し参加者48名（8名×6班）の参加者を決定しました。

しかし、これからが大変でした。参加決定通知書とご遠慮いただいた方にお礼と落選の通知を発送する作業が待っていました。私は作業をしていないのですが、318名分のデータのパンチ作業をされた方は本当

に大変だったと思います。決定通知書は2週間前、お礼と落選の通知書は1週間前の発送となりました。思えば、返信用の封筒か葉書を応募の際につけてもらっておけばよかったと反省しています。

### （更生保護女性会の協力）

更正保護女性会の方には、食事全般をお願いしました。

食材の準備から初日の昼食のお弁当と2日目の昼食まで暑い中おいしい料理を作っていた



いただきました。宇部市には楠更生保護女性会と宇部地区更生保護女性会の2つの地区会がありましたが、どちらにもお声をかけたところ2地区とも快く協力してくださいました。

BBSから少し注文をしまして、郷土料理や田舎料理のようないわゆる“おふくろの味”ということで食事をお願いしました。品目も多く、おやつにスイカのサービスまでしていただいて充実した食事になりました。

### （前日準備）

実施日当日は、天候も良く暑い日となりました。1日目は、午後から会場準備と事前説明会を行いました。

私は所用のため会場準備にはいけませんでした。県内から中国管内、全国のBBS会員により開村式を行い、その後会場の案内、準備と進めていきました。主な準備といえば、テント設営です。これは、自分たちがその夜に泊まるのはもちろんですが、この事業中の宿泊場所となります。そのほかに竹で箸を作りました。

テント設営の後は昼食をとりその後、事前説明会を開催しました。事前説明会は、参加スタッフ全員の意思疎通を行うため、事業の趣旨や経緯、それから日程と役割分担の説明をさせていただきました。実行委員のみんなで参加スタッフへプレゼンテーションを行う形で進めさせていただきました。特に暑い中の開催であるため熱中症への対応や酸化される皆さんはスタッフであり、お客さんではないので自ら考えて動くようお願いをしました。その後は、交流会で親睦を図り翌日からの事業に備えました。

### （熱中症…。）

事業当日は、快晴で夏らしい日差しが注ぐ日となりました。早朝に宇部新川駅に向けて送迎用のマイクロバスを出発させました。もちろん運転手はBBS会員です。午前9時に受付を行い、いよいよ事業が始まりました。事業が進んでいくにつれて気温もだんだんあがってきました。気温が上がっていくにつれて気になっていくのが熱



中症です。

案の定参加した児童に熱中症の症状の児童が出てきました。事業に看護師さんを配置していましたが看護師さんに診てもらいましたが、熱中症の可能性が高いということで救急車を手配しました。数分後に救急車が来ましたが、看護師さんと救急隊の方との話し合いで保護者の方に来ていただくことになりました。

保護者の方が来られ、「帰ろう」と説得されるのですが、その子は帰りたくないで泣きながら「大丈夫だから…」と帰ることに納得をしません。保護者の方の長い説得の後、帰ることになりました。そばに付いていた実行委員は「本当にみているのがつらかった」と言っていました。

また、実行委員も連日の準備のため疲労がたまっているせいか、具合が悪くなる会員が数名いました。



### (ケンカが始まった??)

1日目は竹細工や野外炊飯、キャンプファイヤーなどを行い熱中症の件がなければ無事に終わるところでした。キャンプファイヤーも終わりテントでの就寝準備のころ班付スタッフから「班の中の特定のこどもをいじめている！」と報告が上がってきました。見に行ったところこども同士がケンカを始めていました。その時は理由を聞いても「気に入らない」

としか言わないため、なぜそんなことが起こったかわからずにいました。幸い、実行委員（BBS会員）の中に保育士がいたので、配慮によりテントを分けて心のケアをして休むことにしました。翌朝は、まだ、ぎこちなさが残っていましたが徐々に仲が直ってきました。後に理由がわかったのですが、班付のスタッフのお兄さん、お姉さんを独り占めしたくてケンカになったということでした。

### (事業2日目)

2日目は、朝食の牛乳パックを使ったホットドッグを作る作業から始まりました。紙すきの体験をし、はがきを作って親への手紙を書きました。昼食は、更正保護女性会の方の郷土料理。サバの塩焼きがすごくおいしかったのを記憶しています。その後レク活動を行い、閉会となりました。

私は、ずっと裏方として全体の動きを見ているだけでしたので、開会前の受付と閉会後の記念写真の場の2回し



か子ども達に会ってないため、このときの子ども達を見て、この事業に参加していただいたことで、いかに充実した時間を過ごしたかがわかりました。

閉会式後のバス送迎の際も別れを惜しんで、なかなか出発ができずにいました。

バスが出発したのは後片付けです。荷物こそは来た時より減りましたが、大量のゴミが出ました。エコをうたった事業だったのですが…。生ゴミがほとんどで私の車（ワンボックス）ともう一人の実行委員の車（これもワンボックス）に詰め込んで集積場まで運び解散となりました。



### （終わりに）

事業が終わって半年後から徐々にこの報告書を書き始めたので少し記憶が薄れてきたところがあります。また、私は、事業当日には本部で全体の調整作業や庶務を行っていたため事業がどのように進んだのかが分かっていけませんので事業当日の報告が希薄になってしまいました。申し訳ございません。

思い起こしてみると最初のころはなかなか実行委員の士気が上がらず、焦ったり戸惑ったりしてばかりでした。そういった中でも「まだ、あと1年あるから…」という気持ちがあったことは否めません。実行委員のほとんどがこういった事業が初めてで慣れていなかったこともあります。事業が終わって実行委員のみなさんもいろいろ反省されました。これは終わってから思うことで、過ぎてしまったことは取り戻せません。次に、何かの機会にこの経験を生かしていこうと思っています。

事業が終わり、参加されたこどもの保護者数名の方から意見を聞くことができました。保護者の方々はみんな「こどもがすごい喜んでいて。成長した。来年はいつやられるんですか？」という内容のものでした。また、残念ながら落選されたこどもの親からも「次も応募します。ぜひ行ってください。」といった内容でした。

実は、すごい反響だったわけです。こういった意見ばかりが耳に入り実行委員はみんな「この事業は大成功だったのでは？」と実感がわいてきました。

事業が終わってからの実行委員会で、実行委員の顔も変わっていました。まあ、プレッシャーから解放されたということもありますが。(笑)

実行委員になられた学生さんもいい経験になったと思いますし、「こいつらだからできた！」ということは言うまでもありません。

このような機会を与えてくださいました、日立みらい財団、日本BBS連盟のみなさまに感謝いたします。

あとは、単発で終わることなく、また燃え尽きることなくやっていこうと思います。

たくさん書き漏らしていることがありまた、ご希望に添えるような報告になったか疑問は持っていますが、以上で筆を置きたいと思います。乱筆で、申し訳ございません。

